

◆道徳科学習指導案 中学年

1. 主題名 ルールやマナーの必要性 C 規則の尊重

2. ねらい 約束や社会の決まりの意義を理解し、それらを守ろうとする態度を育てる

3. 教材名 「コロナで変化した親切」(『小さな親切』作文コンクール文部科学大臣賞受賞作より)

4. 学習指導過程

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点（○）評価（☆）
導入	1. 新型コロナによる生活の変化について考える ・感染拡大防止のために、どんなことを実施しているか発表する。	○「新たな生活様式」について実施していることを改めて確認する。
展開	2. 「コロナで変化した親切」を読んで話し合う。 ①図書館での赤ちゃんのお母さんの態度についてどう思うか。 ・せっかく親切にしようとしたのに。 ・コロナがうつると怖いと思ったのかな。 ・「わたし」がコロナ禍で親切にしようとしたのがいけなかった。 ②おじいさんの家に行かなかったのは、どんなことを考えてか。 ・コロナをうつさないため。 ・ルールを守れないといけない。 ・思いやりをもつことが大切。 ③同じように、身の回りのルールについて、なぜそれが決められているのか考えてみよう。 ・なぜ夜遅くまで遊んではいけないのか。 ・なぜいじめはいけないのか。 ※クラスでの決め事や約束などがあればそれをテーマとしてもよい	○プリントアウトしたお話を配布。教師が読み聞かせる。 ○「わたし」に自我関与させ、多様な感じ方考え方を出させる。 ☆「わたし」に自我関与し、自分の感じたことを基に話し合っているか。 ○社会を維持し気持ちよく生活するために、一人ひとりが相手を思いやり、守らなければならない、ルールやマナーがあることを感じさせる。 ○「わたし」の家庭では帰省を我慢したが、現実的にはマナーを守って会いに行くという自由があることも提示しておく。 ○なぜ、学校やクラスにルールがあるのか、それがあってによって、学校生活が気持ちよくすごせていることを理解させる。
	3. ルールの範囲を広げて、社会のルールについてなぜそれが必要なのか発表する。 ○社会のルールにはどんなものがあるか。自分はしっかり守っているか。 ・ものを盗んではいけない。 ・人を傷つけてはいけない。 ・交通ルールを守らなくてはならない。	○約束事は自由を縛るものだと感じるかもしれないが、集団生活をする上で、一人ひとりが約束事を守って行動することや、みんなのために守らなければいけない約束があることに気付かせる。 ☆みんなが勝手気ままに振る舞うことが、社会全体のプラスになっているのかどうか考えているか。
終末	4. 教師の話を聞く ・社会のきまりがなぜあるのか、なぜそれをしてはいけないのか。例を挙げながら、その理由について話す。	・いじめや万引きなどをするすることで、周囲にどういった影響があるのか、など、具体的課題について話をする。